

第2回基山町立学校通学区域審議会【要点筆記】

日 時：令和2年8月20日（木）19時00分～20時05分

場 所：基山町役場2階会議室

参加者：審議会委員：出席（14人）：塩井委員、山里委員、末吉委員、天本委員
梁井委員、行天委員、吉田委員、中村委員
江口委員、本村委員、増田委員、熊本委員
今泉委員、亀山委員

：欠席（1人）：中園委員

教育長：柴田教育長

事務局：井上課長、酒井係長、音成指導主事、山内指導主事

傍聴人：なし

1 開会

井上課長 開会のあいさつ

井上課長：進行

2 教育長あいさつ

- ・新型コロナウイルスの第2波、子どもたちの感染防止対策に努めていく。
- ・次週から、小中学校では2学期が開始となる。新型コロナウイルス感染防止対策と合わせて、熱中症対策にも努めていく。
- ・第1回の審議会の意見をもとに、アンケートを作成、実施した。今回は、そのアンケートの結果、保護者や職員の意見を受けて、審議をしていただきたい。
- ・若基小は、来年度全ての学年で単学級になる。基山小は、特別支援学級が毎年増えて教室が足りなくなっている。基山町の子どもたちの今後を考え、学習環境の充実のために、学校規模の適正化についてアンケート結果をもとに審議していただきたい。

3 議事

基山町立学校通学区域審議会規則第3条第3項により、会長は会議の議長となる。よって、以後は、塩井会長が議長となり、議事進行を務める。

(1) 学校規模の適正化アンケート結果について

事務局が議案書により説明する。（保護者アンケート結果について説明）

- ・アンケートは、7月7日に配布、7月14日に回収した。アンケートの結果は、保護者にも公表する。アンケートの対象は、若基小は1年～6年の全家庭、基山小は1年～5年の全家庭である。

①若基小の結果より

- ・約7割が、学校規模に課題を感じている。
- ・特認校制度について、9割程度は肯定的な回答であった。

②基山小の結果より

- ・約8割が、学校規模に課題を感じている。
- ・特認校制度について、9割程度は肯定的な回答であった。
- ・特認校制度で、子どもを若基小に通わせたいかの問いには、「そう思う」が7名「ややそう思う」が40名だった。

③自由記述欄より（代表的な意見のみ紹介する）

- ・特認校制度には賛成だが、クラスの人数が増えるだけで、2クラスにならなかったときが心配である。
- ・基山小の意見には、校区見直しをしてはどうか、2つの学校を統廃合してはどうかという内容の意見もあった。

【質疑】

- 事前にアンケート結果をもらえていたら、一読して会議に臨めた。
⇒ゆっくり読んでいただく時間がとれず、申し訳ない。
- 学年別の結果は分かるのか。
⇒無記名だが、学年別に集計はしている。区や性別は分からない。
- 第1回審議会で、「あと何人くれば、2クラスになるのか」の目安があったが、学年別の集計があれば、そのことも分かるのでは。
⇒新2年…あと13人（通わせてもよい…13人）実現すれば2クラスになる
新3年…あと10人（通わせてもよい…13人）実現すれば2クラスになる
新4年…あと9人（通わせてもよい…4人）
新5年…あと10人（通わせてもよい…7人）
新6年…あと7人（通わせてもよい…10人）実現すれば2クラスになる
少人数の制度も使えるので、アンケートの結果が実現すれば、4学年が2クラスになる可能性がある。
- 事務局として、アンケートを集計した結果の感想を聞かせてほしい。
⇒特認校制度で、「若基小に通わせてもよい」という回答が、想像より多かった。

(2) 小規模特認校制度について

事務局が議案書により説明する。

小規模特認校制度（案）の概要

- ・若基小の通学区域からだけでなく、町内全ての児童が若基小に通うことができる制度。

【小規模特認校制度を使って若基小に入学、転学できる人】

- ・町内に居住する新入生及び小学生

- ・児童とその保護者の両方が就学を希望する特認校の特色や指導方針に理解があり、賛同し、その教育活動に協力できること。
- ・保護者の責任のもと、登下校が安全にできる児童（車での送迎可）
- ・原則として、1年以上通学できる児童
- ・保護者が、若基小の教育活動やPTA活動に賛同・協力できること
- ・特別支援学級の児童も対象となる。

【受け入れ人数等】

- ・毎年、募集時に決定する。原則1学年2クラスまで。
- ・1クラスの人数に、特別支援の児童の人数は含めない。

【申請手続き】

- ・申請をし、登下校の確認などをする審査を経て、許可となる。
- ・毎年、申請をしていただく。
- ・就学後に、申請の条件と異なり、この制度の趣旨に沿わない事由が生じた場合は、許可を取り消すこともある。

【質疑】

○小規模特認校の制度については、選ばれる特色はあるのか。例えば、学習塾が無料である、進学クラスがあるなど、私立学校のような特色ある施策が、町内の学校でできるのか。

⇒同じ町立の小学校なので、ある程度は、平等にしていきたい。特色を出すとすれば、例えば、基山町で計画中の無料学習塾の場所の一つに、若基小学校を入れることを検討している。しかし、基本的に基山小と、大きな差はつけられない。

○学校職員にもアンケートをとったということだが、結果は。

⇒教職員も保護者と同じように、小学校の学校規模については、課題であると感じている。特認校制度についても、ほとんどが肯定的な回答で、否定的な回答は1名だった。その一方で、保護者の意見にもあったように、「中途半端に増えてしまうのではないか」「特別支学級援の児童が増えても、通常学級増加には反映しないが、そうなるのではないかという心配だ」という意見もあった。

町内3校の職員の意見である。

基山小では、例えば、少人数授業をしたいが空き教室がなくて困っているという意見もあった。若基小も基山小もどちらも課題を抱えていることが分かった。

○統廃合の意見があったというがどのようなことか。

⇒若基小の保護者からは、統廃合の意見はなかった。基山小の保護者の意見の中に、統廃合の意見が19名、きっちりと校区を分けた方がいいのではない

かという意見が 25 名あった。

○基山小は、統廃合しても広さは大丈夫なのか。

⇒統廃合は人数的には、無理ではないと思うが、基山小校舎と敷地の広さから考えると、無理であると考えている。

○基山小は、今後、人数が増えても大丈夫なのか。

⇒今後、5年くらいは大丈夫であろう。建て増しをするスペースを見つけることについては、かなり難しいと考えている。

(3) 審議会答申(案)について

事務局が議案書により説明する。

基山町立小学校の学校規模の適正化について(答申)

令和2年7月1日付け基教第373号で諮問を受けた標記の件について答申の内容、基山町立小学校の学校規模の適正化について

(1) 若基小学校へ小規模特認校制度を導入する

(2) 令和3年4月1日から実施する

(3) 制度の実施については、保護者への事前説明など丁寧な対応を行うこと
・アンケートを読んでもらう時間が十分でなく申し訳ない。本日意見をいただいて、審議をしていただき、この会議において、小規模特認校を導入したいと事務局は考えている。委員の皆様にご賛同していただいた上で、審議会の意見として「若基小学校に小規模特認校を導入する、令和3年4月1日から実施する」ということで答申していただきたいと考えている。

【質疑】

○若基小に行った児童への制服購入の補助金などは考えているのか。

⇒事務局としては、特認校制度を導入する際に、制服を廃止するという考えはない。若基小に行くことになった場合は、制服を購入していただくことになる。

今後、説明会等行っていく中で、「制服の補助」という話が出てくるようであれば、検討していくことになるだろう。

○制服はいくらぐらいするのか。

⇒男女で違いはあるが、上下揃えて、3万円くらいだと思う。(若基小PTA)

⇒バザーなどで、制服を揃えられないかを考えている。

⇒実際はなかなかバザーでは制服は揃わない。(若基小PTA)

○やはり、若基小に行くのなら、制服を新調したいと思うだろう。そこで、補助があればと考える。

○まずは、この審議の一つ目の学校規模の適正化アンケート結果について及び二つ目の特認校制度について、委員の賛同を得られたのかの採決を取る必要がある。その賛同が得られた上で、この審議案でよいのかの採決を取らなくて

はならない。

⇒今回、この審議会の中で学校規模の適正化に向けて、特認校制度を提案している。町議会の中でも、教育長の提案に対して、「早急すぎるのではないか」「アンケートを取る必要がある」などの意見をいただいた。今回、アンケートをとって、保護者、教職員からも概ね理解は得られていると感じている。通学区域審議会で委員の皆様の意見をきちんと聞いた上で、進めていかないといけない。4月から導入するのか、まだ導入しない方がよいのかも審議していただきたい。アンケートの集計をみると学校規模の適正化への方策として一定の成果を出す可能性を秘めていると感じる。

○アンケートの中に、校区見直しの意見もあったことが分かればよいのではないかと。

とても具体的な意見（9区を3分割してどうか、基山小と若基小の子どもがすれ違っている等）もあったので、こうした意見にどのように回答していくか。

○12区（若基小）の中に6区と3区（基山小）の飛び地があり、基山小の子と若基小の子がすれ違っている。

⇒役場の裏辺りの白土、緑が丘、若葉町の辺りは3区になり、ニュータウンの中を歩いて基山小に通学している。

○この辺りについて、今後校区の検討をするのか、しないのか。

○アンケートをとって、このような結果になった。そこで、特認校制度を導入してもよいか、全員の賛同をいただきたいということか。特認校制度を活用した場合は、単年度の取組になるのか。国ではどのように決まっているのか。

⇒単年の取組ではなく、継続を考えている。国の決まりはない。町の教育委員会で決めたら、特認校という形で、校区外からの就学が可能になる。国の許可は必要ない。

○今後の計画の中で、保護者への説明とあるが、これは現1年生から5年生までの保護者が対象なのか。新生児の保護者は対象ではないのか。

⇒アンケートでは、1年生から5年生の保護者が対象であるが、新生児については、就学時健康診断等の集まりの際に、説明をしていくように考えている。

○転入生は、対象になるのか。説明は誰がするのか。

⇒転入生については、教育委員会で説明をする。

○校区見直しについての文言を入れると、将来的に校区が見直されると誤解されるかもしれない。この制度は半永久的に続く制度ではないので、毎年、教育委員会で検証を行うなどの文言でよいのではないかと考える。

○その考えに賛成である。校区は、30年前にしっかり考えられたものである。計画的に検証していくことは大切だが、今回は、校区見直しについては考えなくてもよいのではないかと。

⇒あくまでも、今回は小規模特認校の導入について答申をいただきたいと考えている。

[議長より]

審議会答申案について採決をとる。答申案について、賛同するものは挙手をお願いする。

⇒挙手 13 人（委員参加 14 人）

⇒答申を認めることとする。

(4) 今後のスケジュールについて

事務局が議案書のスケジュール表により説明する。

- ・本審議会にて答申をいただいて、今後は4月の導入に向けてこのような計画で進めていきたい。
- ・アンケートをとっているため、アンケートの結果は、各学校に知らせる。公表については、学校のホームページや町のホームページでもアップしていく。
- ・小規模特認校の実施要項を作成して、前回の審議会でも提案されていた若基小のPRになるような紹介動画等の作成を進めていきたい。現在、若基小でも紹介用のプレゼン資料を作成中である。作成途中だが、別資料を配布している。
- ・10月から11月にかけて、町民会館にて、小規模特認校に関する住民説明会を予定している。合わせて、その場でも募集を呼びかけていく。
- ・新1年生については、就学時健康診断等での募集プリント配布を考えている。
- ・10月から12月に、申請受付をして、12月に申請者への承諾書を送付する予定である。
- ・来年度の学級数の仮の確定が1月末になるため、そこまでは人数を出していきたい。
- ・その後、第3回の審議会を開催し、それまでの経過報告と、導入による児童数の状況、来年度の予定の報告をさせていただく予定である。

[若基小校長より、プレゼン資料についての説明]

- ・文字や写真を入れ、最終的にはスライドショーになるように作成する。作成に関わり、プロジェクトチームを作っている。脚本班と実働班に分かれて、シナリオを作ったり、写真を撮ったりしている。基山町の2つの小学校で、どちらかが突出して優れているというようなことはない。児童に「若基小の良さは何か」というアンケートを取って集計して、若基小のよさをアピールしていきたいと思っている。「若基っ子スタンダード」のことや、先進的に実践している「プログラミング教育」に関することなどを特色としてプレゼンしていこうと思う。

【質疑】

- 若基小の特色の一つとして、体験活動の充実を考えてみてはどうか。例えば、さつまいもの栽培等で、地域と交流することで、特色を出してみるのもよいのでは。
- スクールバスの運用を考えてみてはどうか。保護者の送迎は厳しいところもあるだろうから、一つの案としてバスのサービスを考えてはどうか。
⇒どこから通う児童がいるかで変わってくると思う。コミュニティバスの活用になるのか、ある程度距離のあるところから来るのであればタクシーになるのかは検討材料になってくると思う。
- 若基小の「電子機器を使用せずにプログラミング的思考を育成するアンプラグドプログラミング教育」の実践は、かなり最先端の取組である。これは、一番のPRになるのではないか。福岡のIT企業と東明館がコラボしている取組もあるので、同じ町内でそうしたITの取組の連携を進めて、保護者にアピールしていくのはどうか。論理的に考えて、学習を進めていくということで、パソコンを扱うことよりも大切なことである。

(5) その他

事務局からの説明は、一通り終了したので、今後、この制度の周知、説明会等を進めていく。そうした中で、様々な意見をいただくことになるので、1月の審議会で、そうした意見をまとめて伝えることとする。

[教育長より]

- ・本審議会で、多くの意見を出していただきありがたい。制服の補助やバスの運用、登下校の安全性など、多くの疑問点や課題点をいただいたので、検討や対策を行いながら、本制度がうまくスタートできるように来年度に向けて、準備を進めたいと思う。第3回の審議会で、子どもたちのために、いい報告ができるように、学校と協力しながらがんばっていきたい。委員の皆様にも制度の周知についてご尽力いただけるとありがたい。